

I - A - 5

各種腎炎に対する柴苓湯長期投与の検討

日本赤十字社医療センター 内科, 病理*

石井策史, 猪狩友行, 美並真由美, 西山敬介, 武村民子*

(目的) 柴苓湯は慢性腎炎の蛋白尿減少, 尿所見の改善に有効であることはよく知られている。さらに難治性ネフローゼおよびループス腎炎の再燃防止とステロイド副作用の予防にも効果があることが報告されている。しかし柴苓湯の長期投与が慢性腎炎の経過および予後に及ぼす影響については未だ不明な点が多い。我々は柴苓湯を各種腎炎に5年以上投与した症例を対象に, その臨床経過と腎生検像を対比して本剤の有用性を検討した。

(対象) 症例は当院内科受診の慢性腎炎およびループス腎炎36名(男16名, 女20名)で, 年令は23歳から72歳(平均49歳)まで, 罹病期間は5年6ヵ月から18年に及んでいる。疾患の内訳は慢性糸球体腎炎25名(非ネフローゼ群14名, ネフローゼ群11名), 1gA腎症7名, ループス腎炎4名である。全例にツムラ柴苓湯を原則として1日9.0g, 5年以上投与した。

投与前後の尿所見, 血液生化学および腎機能の変化と副作用の有無など調べた。

(成績) 慢性腎炎の非ネフローゼ群で蛋白尿の消失, 血尿の改善, 腎機能正常のものを有効とすると14例中5例, 蛋白尿, 潜血尿の持続するものを不変とする3例, クレアチニン上昇, 糸球体濾過値低下など明らかな腎障害進展例を無効とすると6例が該当した。無効例中2例が透析導入となった。ネフローゼ群では11例中有効8例, 不変1例, 無効2例であった。1gA腎症は7例中有効3例, 不変3例は腎機能正常だが潜血尿残存例, 無効1例は透析例である。ループス腎炎は4例ともネフローゼ症候群を呈したが, 経過は順調でステロイドとの併用で長期間再燃を阻止出来, 腎機能の悪化も認めない。腎生検は30例に施行し, 糸球体硬化所見の強い症例に無効例が多くみられた。副作用は1例にGOT, GPTの上昇がみられたが, 投薬持続中に正常化した。その他全例に特別の副作用は認めない。

(考察) 慢性腎炎の進展阻止は今日の重大な課題となっている。柴苓湯は腎炎増悪因子の一つである蛋白尿を陰性化出来る薬剤なので, 本研究では, 長期間投与により腎炎の進展が防止されたと窺える症例が数多くみられた。また, ネフローゼ症候群の一例で, 投薬中2回腎生検を施行したが, 組織像は前後で殆んど変化がみられず, 本剤の有用性を示唆していた。

(結論) 柴苓湯は慢性腎炎の進展防止に有効な薬剤の一つであり, 5年以上の長期投与で約半数に有用性がみられた。またループス腎炎の再燃防止に効果があった。